

射水市総合計画審議会 第2回未来創造部会 会議録

○日 時 令和4年4月20日(水) 午前10時～11時30分

○場 所 射水市役所本庁舎3階会議室

○出席者

(委員)

明石あおい、朝倉あゆみ、飯山進、荻浦明希子、樋上正之、二川由利子、松本三千人、松本吉晴、宮城克文、宮田妙子、宮田雅人

欠席委員：なし

オブザーバー：鈴木真由美(リモート参加)

(当局)

桜川議会事務局長、長谷川市民生活部長、小見福祉保健部長、宮本産業経済部長、渡邊会計管理者(会計課長)、久々江教育委員会事務局長、吉岡監査委員事務局長、杉本企画管理部次長、中川財務管理部次長、松下市民生活部次長、轟福祉保健部次長、福井産業経済部次長、塩谷教育委員会事務局次長(生涯学習・スポーツ課長)、六渡教育委員会事務局次長、森田未来創造課長、四日人事課長、作道総務課長、坂井財政課長、佐藤資産経営課長、高橋課税課長、鎧塚収納対策課長、野崎検査監、齊木地域振興・文化課長、板坂市民課長、大居子育て支援課長、星野学校教育課長、片口監査委員事務局次長、菅原政策推進課長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

(1) 全体構成について

政策推進課長	資料1～4に基づき説明
部会長	資料2について意見をいただきたい。
委員A	見やすい構成になった。理解しやすいと思う。 ウェルビーイングの観点として、「希望する結婚・出産をかなえることができる」について、高校生や大学生の学びの時点で、将来に向けて結婚したい、家庭を持ちたい、子どもを持ちたいという想いにつながる学習機会を組み込めたらと思う。
委員B	分かりやすくなったと感じた。その中で残念だと感じた部分として、資料2の中から女性という言葉がなくなった。どこかにほしい。
委員C	うまくまとまっており、市民と向き合う姿勢があると感じた。 市民協働がライフステージの中の目標、取組に全くない。つながるにごっそり移っているように思う。「ライフステージ」の部分は市内在住者向けの取組をまとめたもの。「つながる」の部分は、関係人口など他市在住の人と分けているのか。協働が外部の人だけと間違った印象を与えないように、もうひと工夫ほしい。
事務局	つながるには市外の人だけではなく、市内の市民同士のつながりなども謳っている。「射水とつなぐ」に協働・市民参画があり、ここで市民協働、人と人とのつな

	がりという部分を謳うという構成になっている。
委員 C	見た時に間違った印象を持たれないよう、表現、見せ方を工夫してほしい。
委員 D	市民目線で分かりやすい構成になっていると思うが、各部、章の数が非常に多いと感じる。また、資料 3 で、主な取組が 200 を超える数になり、これにそれぞれ文章がついてくる。大変だと思う。これは現行計画でいう「細節」になるのか。とすればこの主な取組を束ねる「節」があった方がわかりやすいのではないか。 ライフステージの項目として、「年を重ねるあなたへ」とあるが、この表現は良い意味にも悪い意味にも捉えられる。例えば、「熟年のあなたへ」としたらどうか。 また、高齢者福祉は、地域支え合いネットワークで取り組んでいる事業であり、「暮らす」と「年を重ねる」にそれぞれ施策を小出しにすると関連性が薄くなるような気がする。「年を重ねる」の部分は、どこかに含められないか。 「稼げる」など抵抗を感じる表現があるので、それもあわせて検討していただきたい。
部会長	表現も含めて、いただいた意見を検討する。
事務局	会長、副会長に事前に説明してご理解いただいたのは、ライフステージの枠組みで進めることに對してであり、細かな文言や部の構成などは確定したものではない。 表現について、「年を重ねる」の部分は熟慮の末のもの。よい表現があれば意見をいただきたい。「稼げる」はあえて直接的な表現とした。
委員 E	構成案は全体として分かりやすくまとまっていると感じた。 コロナ禍において在宅勤務が広まっており、勤務形態の多様化は射水市にとっても明るい材料だと思う。U ターンのネックである働く場については、リモートワークが定着すれば解決につながると思う。環境を整え、市外へ流出した若者が戻ってくれば、明るい兆しが見えると思う。
委員 F	新しい全体構成は以前に比べて分かりやすく、市民が自分ごととして計画を見ようと思ってくれるのではないか。その上で、旧体系にはあった女性活躍、男女共同参画がなくなった。要素として落とし込んでいたのであれば、共通事項の中に男女共同参画を入れてみるとよいと思う。 「生涯を通じて学び、心豊かに人生を楽しんでいる」が、若い人や学生だと違和感がある。生涯学習だけではないと思うが、「射水で年を重ねるあなたへ」の方がしっくりくる。 今と未来をつなぐとあるが、文化継承の観点では過去と未来をつなぐというものもあると思う。要素として入っているのかもしれないが。 「信頼される行政運営により、市民が豊かさを感じている」の表現について、信頼に対しては豊かさだけでなく、安心もあると思う。「市民が安心と豊かさを感じている」としてもよいと思った。 また、安心は他のウェルビーイングの観点には多く出てくる。活躍、成長といったワクワクするような表現がどこかにあってもよいと思う。
委員 G	ライフステージで分けたことで分かりやすくなった。しかし、落とし込んでいく取組が縦割りになってしまったり、自分ごとに見えて他人事にも見えるといったことなどメリット・デメリットがあると思う。女性活用などのキーワードを入れてメリット・デメリットを踏まえた上で、もう少し分かりやすくする必要があると思う。 構成から基本計画、取組という流れの中でつながりが大事だと思う。
委員 H	全体構成としてよくまとめられた印象を持ったが、取組の内容の数が多いと思う。こういった取組は増えることがあっても減ることはないと思う。多すぎると一番伝えたいことがぼやけると思う。 PTA では子どもは未来の宝としているが、ライフステージが大人目線になってい

	る。大人が射水で子育てをしたいというのも大事だが、子ども達が射水市に住みたい、学びたいと思えるような目線を忘れないでほしい。 言葉が抽象的になりがちだが、誰に向けてメッセージを発信しているか分かるようにキーワードを入れてほしい。
委員 I	資料 2 を見ると分かりやすくなったと思う。特によいと感じるのは「あなたへ」と「あなた」にフォーカスしているところ。ただ、記載することで漏れてしまう部分や疎外感を感じる人が出てきてしまうと思う。分かりやすさは諸刃の剣になる。 「生まれる」から始まっているが、生まれ出た瞬間に「希望する結婚、出産をかなえる」だと重く感じる。生まれた瞬間に、あなたは結婚しなさい、子どもを産みなさいと言われている気がする。生まれ出てきて、まずはこのまちが好きだと思ってもらえるような章立てにしなければならないと思う。 ウェルビーイングの視点として「目指す市民の姿」が記載されているが、「あなたへ」と言っているのに、なぜ目指さないといけないのかと思う。もっと抽象的で本質的なことだけでよいのでは。 地域との関わり・協働について、個と行政という構図になっているが、色々な人が関わり合って生きるという要素を表現として入れてほしい。
部会長	ここで示されているライフステージは所謂標準的なモデルケースで、ここから外れた人、疎外感を感じる人も計画の中で見守っていく、ということが分かるように工夫する必要があるという議論が、他の部会でもあった。
副部会長	キーワードとして「多文化共生」がなくなったのは残念だと思った。例えば共通事項のインクルージョンの推進に多文化共生を追加して「多文化共生・インクルージョンの推進」とするなど、多文化共生を追加してもらえると嬉しい。 フランスで出生率が上がっているのは、結婚している、していないに関わらず手厚く支援してもらえるから。結婚を前提とした出産ではなく、ひとりでも安心して出産して子育てできる環境をつくることができれば、射水市に住めば安心して子育てできると思ってもらえる。
部会長	共通事項は社会背景、時代を反映したものであり、基本方針的なものではないかという議論が他の部会であった。この件について意見があればお聞きしたい。 また、6つの共通事項があるが、ものすごいスピードで進化しており予測不能な時代だと言われている。そういったことも考慮すべき。
委員 D	共通事項が浮いている、関連性が読めない。表現を工夫するなどして、基本方針との関係性を示してほしい。
委員 I	DX や SDG s はツール・方法であり、基本方針ほどトーンが大きいものではないと思う。最初にベースとなる考え方があるのはよいと思う。ベースとなる考え方と共通事項や VUCA の考え方を散りばめる。 その上でこれから生き抜くためのツール・方法として、地方創生や DX などがあるという位置付けもありだと思う。
部会長	「射水で年を重ねるあなたへ」の中に、介護予防・日常生活支援の充実、認知症施策の充実などが挙がっているが、「自分らしくあなたらしく」の 100 歳体操等の介護予防、フレイル対策、認知症予防の推進などと連携させて括ってもよいと思う。
委員 D	「年を重ねる」をもう一工夫してほしい。今取り組んでいること、これから力を入れる取組を整理してほしい。他の文章との関連性を強めてほしい。 学校教育に新規として挙がっている 2 つは抽象的に感じる。以前は「学校生活における相談支援の充実」という言葉があったが、これはどこにいったか教えてほしい。
事務局	「学校生活における相談支援の充実」は新規の取組に統合したいという思惑で、表現を抽象的にした。
委員 D	文章化していくにあたり「学校生活における相談支援の充実」はぜひ表現してほ

しい。そうでないと文章そのものに具体性がなくなってしまう。

高等教育機関等の取組が3つとも新規として出しているが、似たようなものが「つなぐ」にもある。取組の観点が違うというのは分かるが、わざわざ細分化する必要があるのかと思う。離れてしまうことにより見逃してしまうことが出てくるのではと思う。高等教育に関する取組を1つにまとめてもよいのでは。検討していただきたい。

部会長

高等教育機関に属するものとして、個人的には高等教育機関等の誘致や市内高等教育機関の機能向上への支援に期待している。VUCA の時代を生き抜くためには教育が重要。そのために教育機関を充実させることは重要になると思う。

部会長

資料4 将来像について、キーワードや思いがあれば聞きたい。
キーワードとして「ワクワク射水」を出した。これからはAI 技術、情報技術が進展し、人間の仕事がロボットに置き換えられると思う。その際に、だからこそ人間にしかできないことができる環境がないといけない。射水市で生活するあらゆる人が色々なことにワクワクを感じられる環境であってほしい。

副部会長

「射水型ダイバーシティ・多文化共生」を出した。地方都市ならではのダイバーシティ政策を射水市でできればと思う。
また、キーワードとして「幸福度日本一」を挙げた。
「オーガニック市」も挙げた。2050 年までに有機農業を 25%にしていると言っているが富山県は進んでいない。射水市がいち早く手を付けてもらえたらと思う。

部会長

本日いただいた意見等については、次回の部会での協議資料に反映する。次回資料への反映については事務局と部会長、副部会長に一任してほしい。
(異議なし)

4 その他

事務局

次回の部会を5月17日(火)午前10時から、本庁舎2階で開催を予定している。また、全体会については、5月31日(火)午後7時の開催を予定している。

5 閉会

以上